

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

団体名	和	国際地図学協会
	英	International Cartographic Association (ICA)
	団体 HP (URL)	https://icaci.org (日本学術会議が加盟していることの記載 (有) ・ 無)
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		国際地図学会議を世界各国において 900 名から 1500 名程度の参加者を得て隔年開催しているが 2017 年は米国ワシントンにおいて開催された。2019 年は東京において開催され、75 カ国から約 1000 名の参加を得た。
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について		SDGs のような国際的な議論における地図の有効活用を提唱している。また、隔年開催の国際地図学会議では、国際地図展および国際子ども地図展を開催し、500-1000 点にもおよぶ作品が展示され一般公開されることにより地図情報という視覚表現の有用性についてアピールしている。
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて		2015 年の総会において 2019 年の国際地図学会議の東京大会招致に成功、またユビキタスマッピングのコミッションの座長を 2003 年より継続して日本がその任に当たっており、地図の今後について先導的に分野の枠組形成に寄与している。
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて		ICA は ISC のメンバーであり、SDGs のような世界的な課題への対処のため、および地図の作成にはデータの標準化が重要であり最新の動向の把握、国際化における地図情報の共有化、などに加入は不可欠。
その他 (若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など)		国際地図学会議において若手の発表者に対する旅費等の資金援助制度を協会本部および大会本部の両面より設けている。約 30 の研究委員会が適宜世界各地でセミナーやワークショップを実施しており、地図分野の特徴として女性の参加者も多い。

2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め)		2019 年 7 月に国際地図学協会の総会、および国際地図学会議が東京で開催された。
日本人の役員立候補等の予定について		副会長およびコミッション委員長について立候補を予定している。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて		日本は明治になってから近代測量地図作成方法を導入して 2019 年で 150 年となるが、地図分野は文理融合の分野であり、近代の特徴を相対化することにより、今後の当該分野の方

様式第2 (第12条関係)

	向性を議論することを検討している。このことは世界の多くの国々にとっても共通の課題となり得る。
--	--

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第11条 活動報告)

総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去5年間及び今後予定されているもの)	総会開催状況	2023年 予定 (開催地:南アフリカ、ケープタウン) 2019年 (開催地:日本、東京) 2015年 (開催地:ブラジル、リオデジャネイロ)			
	理事会・役員会等開催状況	2019年 (開催地:東京)、2019年 (開催地:アントワープ) 2018年 (開催地:東京)、2018年 (開催地:チューリッヒ) 2017年 (開催地:ワシントン)、2017年 (開催地:ブダペスト) 2016年 (開催地:ワシントン)、2016年 (開催地:マドリード) 2015年 (開催地:ウィーン)、2015年 (開催地:ケープタウン) 2014年 (開催地:リオデジャネイロ)、2014年 (開催地:オロモウツ)			
	各種委員会開催状況	2019年 (開催地:日本、東京) 2017年 (開催地:米国、ワシントン) 2015年 (開催地:ブラジル、リオデジャネイロ) 2013年 (開催地:ドイツ、ドレスデン)			
	研究集会・会議等開催状況	2018年 (開催地:南アフリカ、プレトリア)、2018年 (開催地:クロアチア、ザダ)、2018年 (開催地:中国、深圳)、2018年 (開催地:スペイン、マドリード)、2018年 (開催地:チェコ、オロモウツ)、 2018年 (開催地:スイス、チューリッヒ)、2017年 (開催地:チリ、サンチャゴ)、2017年 (開催地:イタリア、ベニス)、2017年 (開催地:米国、ワシントンDC)、2016年 (開催地:スイス、チューリッヒ)、 2016年 (開催地:オーストリア、ウィーン)、2016年 (開催地:中国、南京)、2016年 (開催地:ラトビア、リガ)			
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定		2019年、国際地図学会議 (日本、東京)、261名 (代表:伊藤香織、熊木洋太) 2017年、国際地図学会議 (アメリカ、ワシントン)、26人 (うち代表派遣:森田喬) 2015年、国際地図学会議 (ブラジル、リオデジャネイロ)、13人 (うち代表派遣:森田喬、有川正俊) 2013年、国際地図学会議 (ドイツ、ドレスデン)、9名 (うち代表派遣:森田喬、熊木洋太)			
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去5年)		役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
		大会組織委員長	2015~2019	森田 喬	(23/24期) 会員・○連携
		ICA ユビキタスマッピング委員会	2015~2019	有川正俊	(23期) 特任連携

様式第 2 (第12条関係)

	ICA 表彰委員会	2011～2015	森田 喬	(21/22 期) 会員・○連携
	ICA ユビキタスマッピング委員会	2011～2015	有川正俊	(23 期) 特任連携
		～		(期) 会員・連携
		～		(期) 会員・連携
		～		(期) 会員・連携
出版物	1 定期的 (年 2 回) 主な出版物名 ICA News			
	2 不定期 (適宜) 主な出版物名 International Journal of Cartography, Advances in Cartography and GIScience			
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 (http://www.icaci.org)				

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第 3 条、4 条、5 条)

	委員会名	地球惑星科学委員会 IGU 分科会 ICA 小委員会
	委員長名	森田 喬
国内委員会 (内規 4 条第 3 号)	当期の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2017 年 12 月 18 日 IGU 分科会 (ICA 小委員会設置、ケベック IGU について) ・2017 年 12 月 26 日 ICA 小委員会 (審議事項: 委員長・副委員長・幹事の選出、23 期 ICA 小委員会の経過と引き継ぎ事項、ICC2019 年東京大会の準備状況) ・2018 年 11 月 19 日 IGU 分科会 (2019 年 ICA 小委員会報告) ・2019 年 6 月 21 日 ICA 小委員会※メール審議 (審議事項: 第 17 回国際地図学協会総会への代表出席者の承認、ユビキタスマッピング委員会継続の提案・座長の推薦について) ・2019 年 12 月 27 日 IGU 分科会 (ICA 小委員会報告) ・2020 年 3 月 18 日 IGU 分科会 (ICA 小委員会報告) ・2020 年 9 月 14 日 ICA 小委員会 (審議事項: ICC2019 東京大会への対応の概要、ICC2019 東京大会以降の ICA の動向) ・ICA 小委員会により設置された ICC2019 年東京大会組織委員会の幹事会を毎月 1-2 回開催
内規第 3 (国際学術団体の要件関)	国際学術交流を目的とする非政府かつ非営利的団体である	
	①. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (http://www.)	
各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か)		

